

# のぼりバツ

広報

3/1

1997

No.557



## 主な内容

- ・住みよいまちづくりのために  
平成8年度事業の紹介
- ・市民レポート「登別のまちづくり」  
リポーター 上野雅春さん
- ・各種医療費助成制度のお知らせ
- ・きらり ボランティアサークルで車いすの  
ガイドマップづくり 堀切夢香さん

登別温泉の冬の一大イベント「第26回登別温泉湯まつり」が、2月3日・4日の両日、厳寒の温泉街を舞台に、にぎやかに繰り広げられました。

豊かな温泉の恵みと効能に感謝し、開運と無病息災を願う祭りで、毎年節分の日に合わせて行われています。

まつりの呼び物「源泉湯かけ合戦」では、下帯姿の若衆が二手に分かれ、威勢の良い掛け声とともに湯を豪快に掛け合うと、会場はもうもうと湯気に包まれ、湯のはじける音と元気な声が響いていました。



# 住みよい まちづくりのために

平成8年度も残りわずかとなりました。  
 市は今年度、住みよいまちづくりのため、いろいろな事業を行いました。  
 今回はその中から、いくつか紹介します。  
 変わりつつある、ふるさと登別。  
 平成9年度も、さまざまな事業が予定されています。  
 来年度の主な事業と予算については、広報のほりべつ4月1日号でお知らせします。

## (仮称)千歳グリーンパークの整備



今年度、野球場が整備され、テニスコートやパークゴルフ場など、すべての施設が来年度、完成予定です。(千歳町)

## 千歳最終処分場の整備事業



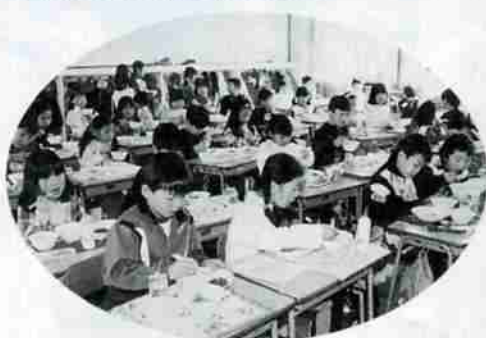
平成12年度の閉鎖に向けて、平成6年度から埋め立て整備が続けられています。(千歳町)

## 消防用車庫の建設



来年度、はしご付消防ポンプ自動車を購入予定で、そのための車庫として建設されました。(中央町)

## 学校給食食器の取り替え



食器がポリカーボネート製になり、カップの種類も増え、持ちやすくと、子どもたちに好評です。

## 小規模治山事業



がけ崩れなどの危険性がある法面を保護するため、平成6年度から事業に着手し、今年度、常盤町4丁目が完了しました。(常盤町)

## 札幌のほりべつ会の発足



札幌圏に住む登別にゆかりのある方々が集まり、ふるさと登別との交流を目的に発足されました。





登別総合在宅ケアセンターの設立

在宅の高齢者とその家族に総合的なケアサービスを提供するため、設立されました。  
(事務局：しんた21内)



登別市ファミリーサポートセンターの設立

地域全体で子育てを支援しようと、道内で初めて設立されました。  
(事務局：しんた21内)



西陵中学校屋内運動場の改造

暖房装置や電動照明、車いす用トイレなどを備えた屋内運動場が完成しました。  
(片倉町)



登別市文化・スポーツ振興財団の設立

文化・スポーツの普及と振興のため設立され、自主文化事業などがさかんに行われています。(事務局：市民会館内)(写真は12/4に行われた「はまもつ洋カルテットクリスマスコンサート」の様子)



教育用コンピュータの導入

先生の研修用として、今年度は各小学校に1台ずつ導入されました。



北駅前通り(道道弁景幌別線)整備事業

移転補償が進み、改築する店舗などが増え、町並みが変わりつつあります。(中央町・片倉町)  
※この事業は北海道の事業です。



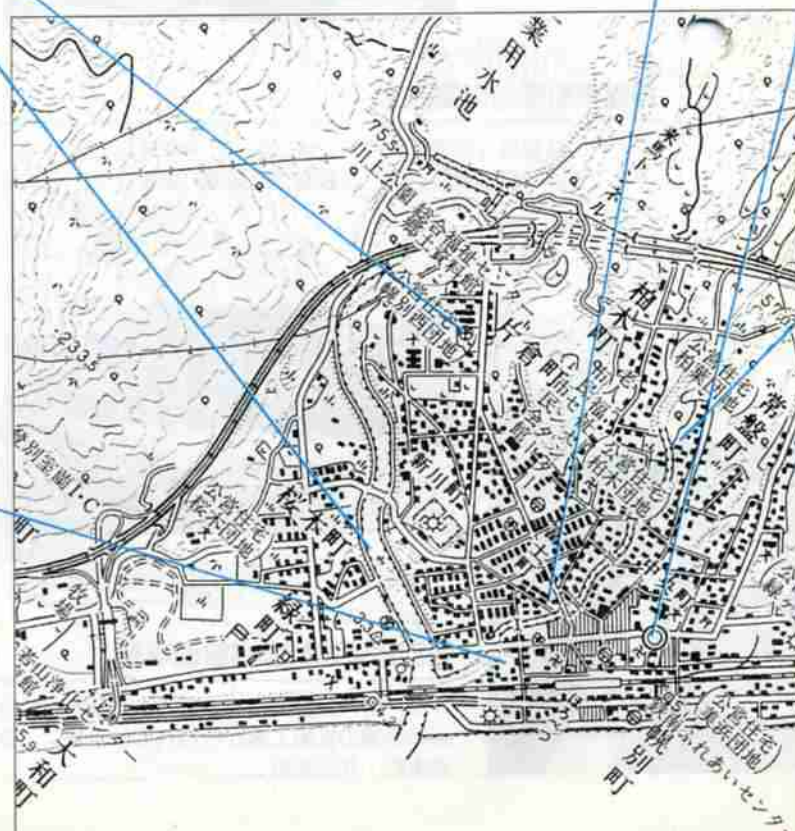
富士通り(道道上登別室蘭線)整備事業

今年度、幌別川にかかる橋の工事が始まりました。(絵は完成予想図)  
※この事業は北海道の事業です。



TVh幌別サテライト局の開局

11月15日に開局し、ほぼ市内全域でTVh放送が見られるようになりました。  
(中央町)





### 温泉公民館の改造

窓枠をサッシに取り替え、床や天井が貼り替えられ、FF式ストーブが設置されるなど、内装も設備も充実しました。

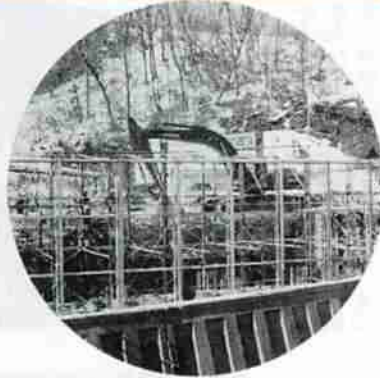
(登別温泉町)



### 温泉バイパス（道道倶多楽湖公園線）整備事業

移転補償が進み、今年度からバイパス工事が一部始まりまりました。(登別温泉町)

※この事業は北海道の事業です。



### 市営登別温泉団地の建設

現在、1棟を建設中で、今年6月、エレベーター付き市営住宅（7階建28戸）が完成予定です。

(登別温泉町)



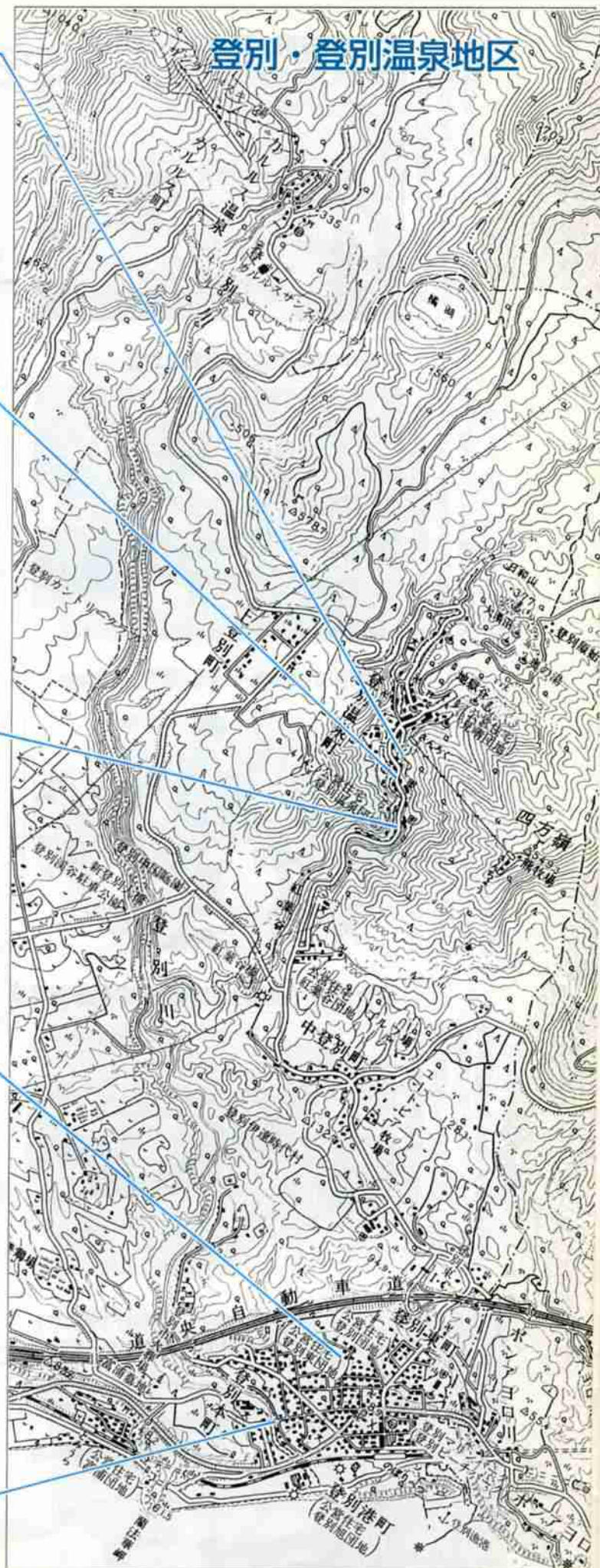
### 道営東町団地の建設

現在、3棟目（3階建12戸）を建設中で、今年9月完成予定です。(登別東町) ※この事業は北海道の事業です。



### 登別富浦路線歩道整備事業

歩行者の安全のため、現在、登別小学校付近の歩道の拡幅工事が行われています。(登別本町・登別東町)





**美園配水池の新設**

水量不足と低水圧解消のため高台に新設され、高水圧で安定した給水が可能になりました。  
(美園町)

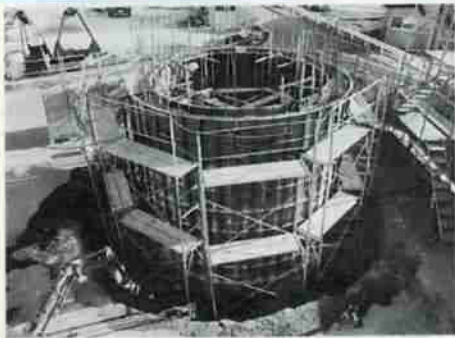


**公共下水道事業**

若山浄化センターの第2期増設工事が終了し、今年度は幌別町・片倉町・桜木町・柏木町などで公共下水道が供用開始されました。



**大容量防火井戸の新設**



この防火井戸は約100トンの地下水を常時ためておくことができ、災害時などに威力を発揮します。  
(鷺別町)

**美園地区ロードヒーティング**

坂の勾配がきつい市道美園3号線120mがロードヒーティング化され、冬道も安心になりました。  
(美園町)



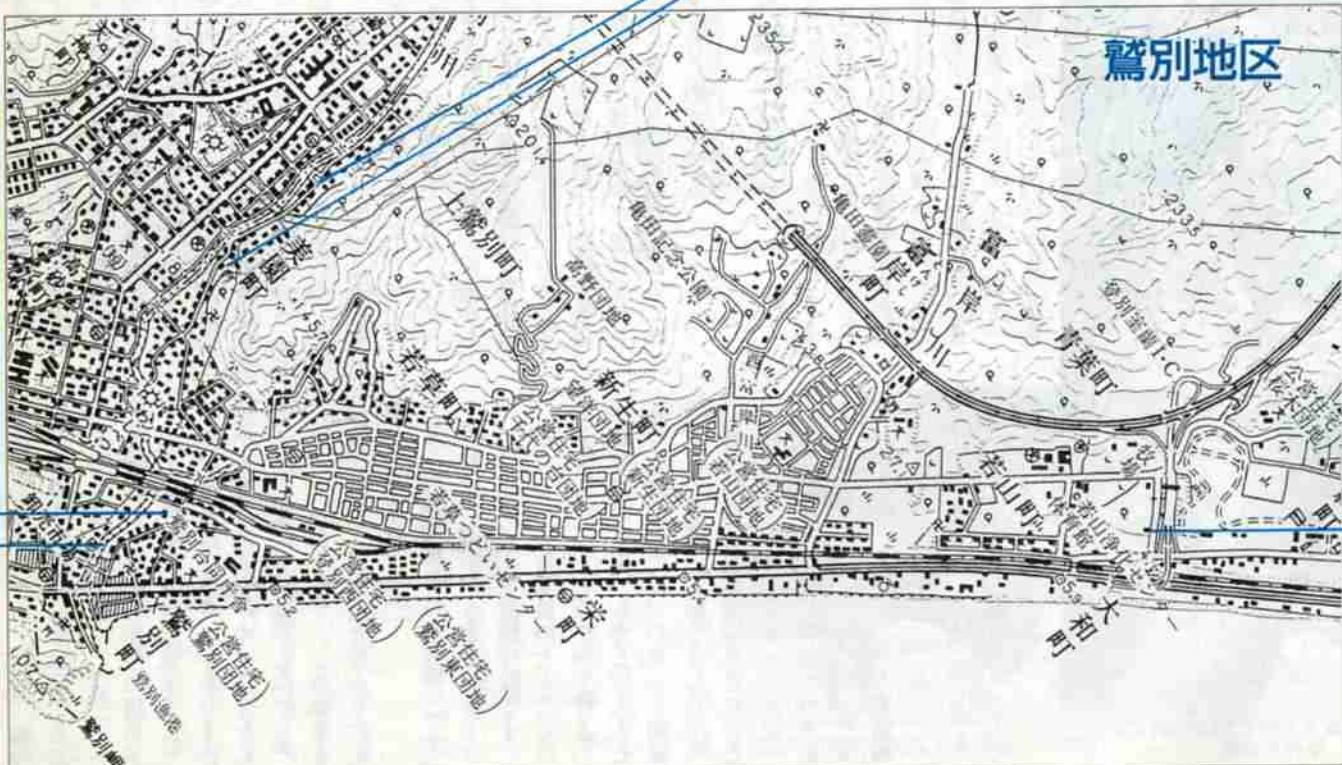
**美園公園の新設**

北海道通産局の産業再配置促進環境整備費補助金を受け、コンビネーション遊具やトイレなどを整備した公園が完成しました。  
(美園町)



**恵愛病院新院舎の建設**

市の地域総合整備資金貸付を活用して、旧病院の2倍の広さを持つ新院舎が完成しました。  
(鷺別町)





「登別のまちづくり」



▲小学6年生の女の子のチョコバナナの出店

市民リポーター

上野雅春さん  
(登別東町・31歳)



広報のほりべつ平成9年2月1日号で、ともにまちづくり活動を進める千葉保さんが登別で行われているまちづくり活動についてリポートしました。

今月号では、前回に引き続き、私も、自ら参加したまちづくり活動の体験をもとに、登別のまちづくりをさらに詳しくリポートしてみたいと思います。

〈まちづくり参加のかわり〉

フラワーパレットのほりべつ

毎年、初夏に「フラワーパレットのほりべつ」というイベントが、実行委員会主催で登別駅前周辺を会場に開催されます。



▲毎年初夏に開催される「フラワーパレットのほりべつ」

実行委員会は、登別に住む方により構成され、私自身も第1回目

より実行委員として参加しています。このイベントの主旨は、「花を育てる心を育てる」「自分たちの住むまちは自分たちで良くしたい」という考え方を基本として、時には壁にぶつかりながら、時には新しい考え方を取り入れながらまちづくりをしていこうというものです。

昨年には、そのまちづくり活動に新たな風が吹きました。

大人だけの発想ではなく、イベントを作り上げる初期の段階から子どもたちの豊かな感性、独創性を借りてみたい。つまり「フラワーパレットのほりべつ」の実行委員に登別の小学生や中学生に参加してもらおうと、学校を通じ広く呼びかけたのです。

〈新たな風〉

反応はありました。

まず、一番手は小学6年生の女の子4人組が、「チョコバナナのお店を出したい」と申し込んできたのです。しかし、チョコバナナの店は、彼女たちのほかに、複数

の出店があったため、結局、輪投げゲームの賞品として出品することになりました。

二番手は、小学5年生の男の子4人と女の子4人の混成チームでした。彼らはフラワーパレットに前から遊びにきていて、自分たちも「このおまつりで何かしたいなあ」と思っていたそうで、この募集を知り、待ってましたとばかりに応募したそうです。

彼らの参加種目は「迷路」です。材料は、段ボールとガムテープだけ。まずは、設計図作成です。私たち、実行委員の大人たちは聞き耳をたて、どうやって作るのか興味津々です。しかし、大人たちの心配をよそに、おまつり開催当日に、迷路は完成しました。

外見には、お世辞にもきれいとは言えませんが、ひと一人が這って入る迷路の中は、傾斜や行き止まりがあり、ビニールで作ったスタレがあったり、入った人を惑わす光り取りの穴が開けてあったりと、子どもから大人まで楽しめる、彼らのアイデアが盛りだくさんでした。



▲アイデアいっぱいの手作り迷路



彼らの次回の目標は、来場者に作り上げる経過を理解してもらい、さらに楽しんでもらうことだそう  
で、われわれ大人は、目からウロコが落ちてしまいました。  
三番手は、中学1年生の女の子1名での参加でした。

彼女は、普段から絵やイラストの勉強をしているらしく、フラワーパレットの主旨やテーマについて実行委員から説明を聞き、フラワーパレットの絵を描いてみようということになりました。

そして、出来上がった絵は、多少大人の手が加わったものの、「96フラワーパレットのほりべつ」のポスターになり、彼女も満足のいく結果でした。

まちづくりは、大人だけではなく、子どもたちも自らの考えでま

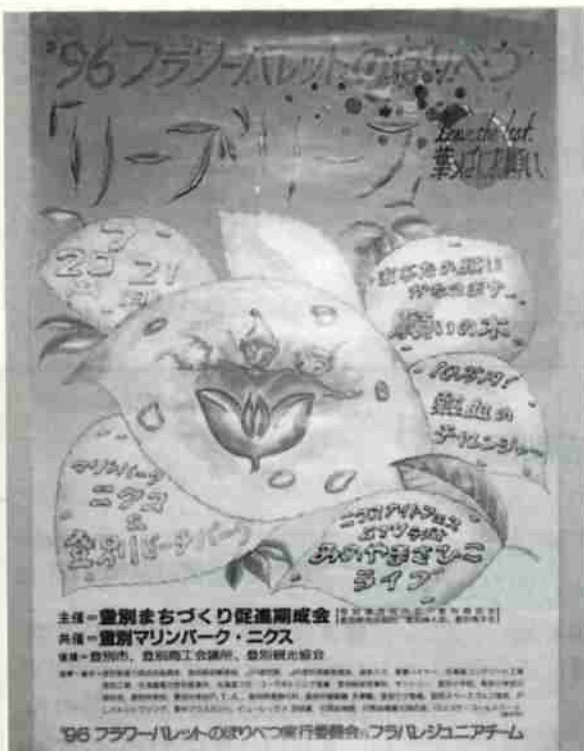
ちづくりに参画してもらおうことが大事だと思えます。それが、イベントにしてもまちづくりにしても、将来において次世代につながることにになり、そうやってほしいと期待をしています。

## 一人ひとりの

### まちづくり

前号でも紹介していたように、登別まちづくり促進期成会には、「散策委員会」「マップ委員会」「街路委員会」という三つの委員会があります。その三つの委員会が合同で、登別の「いいところ」を再発見しようと、「秋の散策会」を行いました。

「秋の散策会」には、私もスタッフとして参加しましたが、記録係



▲'96フラワーパレットのほりべつのポスター

として参加していた一人の男性のまちづくりについてご紹介したいと思います。

その男性は、室蘭市から登別市に移り住み約20年になるそうです。ちょうど移り住んだ家の前に、

空き地を利用した公園があり「もつときれいにしたら有効に利用できるの」と、思い立ちその方のまちづくりは始まったそうです。

その公園は、40cmほどの雑草が生えていたそうで、とても子どもたちが集まり遊べるような状態ではなく、まずは草刈りから始めたそうです。



▲水芭蕉の群生地

その後、約20年間に渡り、公園の管理を続け、最初は「三日坊主だろう」という声もまわりから聞こえたそうですが、今では、年に

数度の草刈りに近所の方も手伝ってくれるようになったそうです。

また、その方は登別東町の谷地に水芭蕉の群生地を見つけたそうで、人の住む場所からこんな近くに水芭蕉がこれだけ群生するのはめずらしいと、その土地の所有者に直接掛け合い、自分の家の前の公園と同時に、今度は水芭蕉の群生地の手入れを始めたそうです。

笹を刈り、水芭蕉の種を蒔くことから始め、その地は、毎年春になると、きれいな水芭蕉の花を咲かせ、多くの方が自然の景観を楽しむことができる場所になりました。

## 希望の鐘が

### 鳴り響くまち

私も、まちづくりに参加するようになって10年がたちますが、その中で得た様々な経験は、現在の私の生活の中で大いに役立っています。

今回、この市民リポートをしたことよって、また違った角度からまちづくりの視点を見出だしたような気がしています。

子どもたちが、自分の考えで参加していくまちづくり。一人で始めるまちづくり。まちづくりの方法はいろいろあると思います。

早朝より、登別駅前や近隣のゴミを拾い、空き缶やビン類を分別収集のごみ入れに入れてる方。



▲登別中学校の生徒によるクリーン作戦

近所の花壇に身銭を切って苗を植えている方。

目立たなく、見えないまちづくりを長く続けている方が大勢います。

「まちづくり」とは、自分たちが見つけたことを、自らが実践し、考え、そしてまわりの人たちが自然と気付いてくれる。

こんな姿が理想ではないでしょうか。フラワーパレットのテーマの一つでもある「花を育てる心を育てる」ということは、なにも花を育てるだけではなく、相手に対する思いやりや、「まち」に対する愛情が本来の目的であり、そしてその気持が「まち」全体に広がると「希望の鐘が鳴り響くまち」になるのではないのでしょうか。



# ご存じですか？各種医療費助成制度

市は、各種医療費助成を行っています。（老人医療費助成制度については、広報のほりべつ9月1日号でお知らせしています）

詳しくは問い合わせください。



▶問い合わせ 保険年金課医療給付係（☎851771）

乳 幼 児 重度心身障害者 母子家庭等 の医療費助成制度					
制度	内容	対象年齢	対象となる方	手続きに必要なもの	給付（助成）の概要
乳幼児医療費助成制度 <b>乳</b>		0歳 ～ 5歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>●登別市に住居登録している方</li> <li>●医療保険に加入していること</li> <li>●0歳～2歳（入院・通院・指定訪問看護）</li> <li>●3歳～5歳（入院・指定訪問看護）</li> </ul> ※期間は3歳・6歳に達する日（誕生日の前日）の属する月の末日までです	<ul style="list-style-type: none"> <li>●印鑑</li> <li>●医療保険証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保険診療の自己負担分を助成します</li> <li>※ただし、指定訪問看護の基本利用料及び入院時の食事療養費の標準負担額は除きます</li> </ul>
重度心身障害者医療費助成制度 <b>障</b>		0歳 ～ 64歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>●登別市に住居登録している方</li> <li>●医療保険に加入していること</li> <li>●身体障害者手帳の等級が1～3級の方</li> </ul> ※ただし、3級の方は内部障害（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱、直腸、小腸）のみ <ul style="list-style-type: none"> <li>●知能指数(IQ)がおおむね50以下の精神薄弱者と判定又は診断された方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●印鑑</li> <li>●医療保険証</li> <li>●身体障害者手帳、療育手帳又は診断書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保険診療の自己負担分を助成します</li> <li>※ただし、指定訪問看護の基本利用料及び入院時の食事療養費の標準負担額は除きます</li> </ul>
母子家庭等医療費助成制度 <b>母子</b>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●登別市に住居登録している方</li> <li>●医療保険に加入していること</li> <li>●母子家庭などの満20歳未満の児童及び母</li> <li>●両親の死亡、行方不明などにより他の家庭において扶養されている満20歳未満の児童</li> <li>●児童（入院・通院・指定訪問看護）</li> <li>●母（入院・指定訪問看護）</li> </ul> ※ただし18歳以上20歳未満の母子家庭などは、所得税非課税世帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>●印鑑</li> <li>●医療保険証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保険診療の自己負担分を助成します</li> <li>※ただし、指定訪問看護の基本利用料及び入院時の食事療養費の標準負担額は除きます</li> </ul>

※乳幼児医療受給者が、登別市・室蘭市・伊達市・豊浦町・虻田町・洞爺村・大滝村・壮瞥町以外で病院にかかり医療費を支払ったとき、または、重度医療・母子医療受給者が道外で病院にかかり医療費を支払ったときは、市役所保険年金課（11番窓口）・各支所で払い戻しの手続きをしてください。

## ▶手続きに必要なもの

受給者証、健康保険証（組合員証）、印鑑、領収書、振込希望銀行名と口座番号  
（高額療養費に該当する場合は、加入保険組合と市の両方に手続きが必要です）



# きらり



## 車イスマップを作った高校生ボランティアサークル「茶ばしら」のリーダー

堀切 夢香さん

のかと思っただのが発端です」  
「マップを作成したときの感想を聞かせてください」

車イス利用者と一緒に2年間かけ、車イス利用者の視点で登別市内の公共施設やホテル、テーマパークなどを訪ねて、冊子「車イスマップ登別」(30ページ)を完成させ、「福祉に役立てて」と市に寄贈しました。

縁起のいい名前のボランティアサークル「茶ばしら」(5人)のリーダー、堀切さん(登別高校3年)に話を聞きました。

「車イスマップを作ろうとしたきっかけは

「茶ばしら」は、社会福祉協議会主催のワークキャンプに参加したことがきっかけで、2年前にできました。

そして、何か活動をといて、障害者の方の車イスの操作を見て、大変だなあと思う、車イスで町の中を行動するとう大変な

「車がないので、バスを利用したり、列車を利用したりで移動するのが大変でしたけれど、列車の乗り降りでは、居合わせた男性が重い車イスの移動を手伝ってくれたりして、感激しました。」

マップは、全部手書きでしたから、できあがったときは、やったね、という感じです。

マップにも書いていますが、障害者にやさしい環境は、まだまだ不足しているということがわかりました」

「ボランティアをやってよかったと思ったことは

「肢体不自由のお子さんのお世話をし、何か月かして再会したとき、自分を覚えていてくれて、そのときは、涙をこらえるのがやっとなというくらい、とてもうれしかったです」



▲茶ばしらのメンバーと、完成した車イスマップ(右)

ボランティアをやってまわりの人から、当たり前なことなのに「えらいね」と言われると抵抗を感じます、という堀切さん。  
4月からは名古屋の看護学校に進学します。登別で培ったボランティア精神でがんばってください。

## いまいきボランティア

視力障害者を支える活動  
優しさを声に込めて

中登別町の川仁菊子さんは、個人ボランティアとして、しんた21内にある点字図書室で、録音図書ボランティア活動をしています。

この活動は、毎週、目の不自由な方のために、新聞などの生活情報をカセットテープに吹き込んだり、完成した録音図書をダビング(複製)し、利用者へ郵送したりするものです。

川仁さんがこの活動を始めたのは、昭和52年ころ、川仁さんが所属する障害者団体の目の不自由な方から、広報や新聞をカセットテープに吹き込んでほしいと、頼まれたことがきっかけで、現在もその活動が続いています。

川仁さんは、「本を読むことが大好きなので、吹き込むことは全然苦になりません。ダビングも誰でも簡単にできますよ。また、現在、デイ



▶録音図書のダビングをする川仁さん

※点字図書室は、目の不自由な方が利用できるように、点字本や録音図書(カセットテープ)に吹き込んだものを蔵書しています。

これらの点字本や録音図書は市販のものに加え、市内のボランティアグループでも作製されています。

現在、点字本(340タイトル、1千127冊)、録音図書(478タイトル、1千966巻)があり、目の不自由な方40名が利用しています。

ボランティアセンター  
伝言板

ボランティアセンターでは、点字図書室で録音図書をダビングしてくれるボランティアを募集しています。

▼問い合わせ 登別市社会福祉協議会ボランティアセンター  
(☎0860)



## 寒さなんて、へっちゃらさ！ ～第8回ふるさと冬まつり～



2月8日(出)、川上公園で登別市ふるさと広場実行委員会主催による、第8回ふるさと冬まつりが行われ、1千人の市民が会場を訪れました。

会場では、実行委員会のメンバーが作った長さ約20mのジャンボすべり台に順番を待つ子どもや大人の行列ができ、空にはペットボトルロケットや連だこが飛び、子どもたちの目をくぎ付けにしていました。

昼時には、実行委員会メンバー手作りのそばやうどんを食べながら、「寒い時はそばにかぎるね」となかなか通なことを話す子どももいました。

## 水道事業運営審議会 水道料金の改定を答申 16.45パーセントの上げ幅で改定へ

市長から水道料金の改定について諮問を受け、審議していた水道事業運営審議会(石井憲一会長、委員10名)からの答申が2月7日(金)ありました。

答申では、老朽化に伴う配水池や浄水場の整備、送配水管の耐震対策、量水器の更新などに多額の費用を要することから、現在の水道料金を16.45パーセントの上げ幅で改定するもので、半年間の周知期間をおいた後、実施時期を今年10月からの予定としています。

市水道部では、「水道料金の改定では、市民のみなさんにはご迷惑をおかけしますが、水道事業の経費節減に努めること」とはもとより、独立採算性の原則からいって、改定はやむを得ないもの」として、今回の答申を受け、改定案を3月議会に提案し、審議されます。



## 三市交流少年スキー大会で豪快な滑走



1月26日(日)に登別、室蘭、伊達の三市の第16回少年スキー大会(三市教育委員会主催)が、カルルスサンライバスキー場を舞台に開かれました。

このスポーツ大会は、三市の小中学生のスポーツ交流の一つとして毎年開催されているもので、小学4年生以上と中学生の約30名が男女・学年別に分かれ、全長800m、旗門26のコースを滑走し、家族や友だちの声援を受けながら、タイムを競いました。

小学生女子の部で1位になった幌別西小学校5年生の生田目育江さんは、「最後まで旗門をはずさずにゴールしようと思った。緊張はしなかった。これからもっと良いタイムが出るように練習します」と、話してくれました。



# 東 奔



## 心に響く和の音色

### 『津軽三味線VS和太鼓』

2月14日(金)、和の激突「津軽三味線VS和太鼓」(文化・スポーツ振興財団主催)が、市民会館で行われました。

舞台では、津軽三味線「風」KAZE かるてつとの3名と粹打天太鼓の2名が「津軽じょんがら節」や「祭り太鼓」、世界の民謡などを演奏し、約650名の観客は、親しみ深く力強い和の響きを楽しみました。

後半では、太鼓教室が開かれ、登別太鼓同好会のメンバー4名が、プロの手ほどきを受け、プロも驚くばちさばきに、会場は大いに盛り上がりました。



## サンライズバススキー場

### 修学旅行生でにぎわう

1月から2月にかけてカルルス町のサンライズバススキー場では、道外からの修学旅行生でにぎわいました。今シーズンは、昨シーズンよりも2校増えて7校(約1千900人)が参加しています。

2月12日から3日間の日程で、兵庫県立洲本実業高校(男女共学)の2年生280人が登別温泉のホテルに泊まりながら、スキーに悪戦苦闘。

ほとんどの生徒はスキーが初めてで、歩くのがやっとという生徒も最終日には、リフトを使って軽やかに滑り降りてくる生徒もいました。

スキーを指導したカルルススキー学校長の奥山さんは、「ここに来るまで高校でかなりのトレーニングを積んでいるので体力もあり、上達も早いですね。卒業してからも北海道に来てくれるといいですね」と話していました。

## 仲間たち

### お母さん同士の輪を大切に

## 子育てサークル たんぽぽのよじこ

会長 石川 寿美子さん

☎0607336



子育てサークル「たんぽぽ」のように、幼稚園入園前の子どもとお母さんのサークルです。

現在、会員は25組ほどで、毎週曜日の10時から12時まで、市民会館などで活動しています。

月2回は、お母さんたちがアイデアを出し合って集団遊びなどを行っています。あとの週は、お母さん子どもたちも自由におしゃべりしたり、遊んだりしています。

また、季節に合わせてクリスマス会などを行ったり、夏には亀田記念公園でジーンズスカンを食べたりと、趣向をこらして楽しく活動しています。

おもちゃなどは、ほとんどが

お母さんたちの手作りです、あまりお金をかけないようにと、細かな工夫をしているそうです。

会員の石川さんは、「お母さんが楽しそうにしていると、子どもも楽しい気分になるよう、みんないい顔をしています。

ほかのお母さんから子育てのアドバイスをもらったり、おしゃべりしたりするだけで、気分も楽になりますし、「これから子育てがんばろう」という気持ちになります。元気のもとです」と、話してくれました。

子育てサークル「たんぽぽ」のように、では、随時会員を募集しています。詳しくは会長の石川さんへご連絡ください。



# 郷土史 点描

〔82〕

## 比田井天来揮毫の頌徳碑をめぐって(4)

## 登別と栗林五朔との関わり③

登別郷土文化研究会 宮武 紳一



▲登別駅電車構内の写真(50人乗りボギー車)  
宮城 隆さん(登別東町)提供



▲特殊鋼の素材生産を目指した登別製鉄所

明治44年生まれ、数え年87歳でお元気な中登別の小林信氏のお話によると「中登別の『神威若』の停車場は、現在の小林商店の南側で、軌道は現在の道路中央を通り、軌道の南側に木造の大きな貯水槽が設けられ、カムイワッカの水を貯水して蒸気機関車に給水していた」という状況のようです。

さて、登別から温泉までは、標高約200mの山間を縫って長い坂道を通っていく。大正6年(1917年)の陸地測量部図にある軌道を見ると、登別駅の東側からマリパークを北に進み、当時の遊覧坂(現在の国道方向)に沿って虎杖浜臨海温泉区に上り、ポンアヨ口川の川岸を通り、わかさいも登別東店のすぐ北側に出て、これからは現在の温泉への道路に沿うように紅葉谷の方向に上っていった。蒸気機関車が坂を進む場合、石炭を多くくべて火力をあげ蒸気を高圧にするが、石炭の投げ入れが多いと不完全燃焼になり、真黒い煤煙や火の粉を機関車の煙筒から

まき散らし、客車の窓へと入り込む。暑い夏は尚更のこと、晴れ着や荷物に火の粉がついたら大変で景観を眺めるどころでない。それに山火事も発生した。満員の客を運ぶことは嬉しいが、機関手も蒸気機関の扱いに苦労をしたようだ。

このような中で、蒸気機関車から電車に変えることが株主総会で決定し、50人乗り電車3輛の購入と電車用線路の切り換え工事が行われ、大正14年(1925年)11月10日に電車が開通される。

当時の室蘭毎日新聞をみると登別駅の列車と接続し、1日10往復、登別と温泉間35分で走ったことが記載されている。

電力は、栗林五朔が温泉の近代化を進めるため、登別温泉の妙慎寺北側「勝岡の滝」を利用して発電させ、電燈を灯していたが、更にタービン2基を増設、千歳川上流にカルルス発電所を設置、また現在の温泉停留所付近にドイツから重油発電機を購入し発電所を設け電力の充実を図ったが、猶電車になっても問題があった。開設当時8万余人の乗客が3年後には12万1千余人と急増したのである。

水力発電が主なので、季節による川の渇水、旅行シーズンや団体の満員電車、電車2輛を走らせて走らせる場合など、どうしても電力不足となり、そのしわ寄せが温泉町の電燈に影響する。

滝本ハマさんに仕えた、90余歳

で耳や思考も明確な広瀬キサさんのお話によると「登別からのお客の多いときは、家の電燈も薄暗くなり暗闇の状態になる。紅葉谷の下り坂になると急に明るくなるが、とにかく電車のお客が多いか少ないか、登別からいま何処の辺りを走っているかは電燈の明暗で分かった」というエピソードを語ってくれた。

さて、登別と栗林五朔とのかわりは、登別の近代工業の先駆けというべき登別製鉄所を開業させたという偉業がある。

大正7年、株式会社登別製鉄所を設立。翌年3月5日栗林五朔氏により火入れ式を挙行、初湯出しをした記事が室蘭毎日新聞に記載されている。現在の登別東町1丁目マリパーク付近で、写真にあるような工場であった。

登別製鉄所は、コークスの代わりに木炭を使用したもので、特殊鋼の素材生産を目指し、困難な研究の結果、当時世界第一のスウェーデン鉄よりも優れた鉄の製造に成功、後の総理大臣で海軍大将の岡田啓介が急きょ登別に視察に来たほどの重大事であった。

平成2年5月より掲載してきました「郷土史点描」は、今回をもって終了することになりました。長年のご愛読ありがとうございます。

(総務部総務課広聴広報係)



# あちらがると

## 情

### 迷惑しています！

#### 犬の放し飼い

冬期間になると、夜間や早朝に犬を放す方が多くなります。そのため「犬に襲われた」「吠えられる」などの苦情が多く寄せられます。

また、捨てられた犬の野犬化が問題になり、市では常時、市内全域で野犬掃とうを行っています。首輪をしている放し飼いの犬も野犬とみなし、掃とうの対象になります。

放し飼いの犬が捕獲され、飼い主が判明したときは、罰金または料金の罰則が適用されることがありますので、犬を放し飼いにしないでください。

▼犬についての相談・問い合わせ  
環境衛生課 (☎ 2958)

#### 労働保険年度更新の

#### 手続きはお早目に

事業主のみなさん、今年も労働保険料(労災保険、雇用保険)の確定(平成8年度分)と概算(平成9年度分)の申告・納付の手続きの時期になりました。

手続きは「早めに」必ず期間

中に「行うように」しましょう。

▼期間 4月1日(火)から5月20日(火)まで

▼申告・納付先 もよりの銀行、郵便局、または労働基準監督署

▼問い合わせ 室蘭労働基準監督署 (☎ 6131)

#### 自動車の登録・検査の

#### テレホンサービスを開始しました

自動車の登録・検査手続きの問い合わせやユーザー車検の申し込みが、電話やファクスで簡単にできるようになりました。



電話はダイヤル式・ブッシュ式のどちらでも利用できます。

テレホンサービスを利用する際は、自動車検査証をお手元にご用意のうえ、電話してください。

▼テレホンサービス番号

☎ 233000

#### ▼利用時間

○手続き案内 24時間受付

○車検予約 8時30分～17時(土曜日・日曜日・祝日を除く)

※予約は、受検日の7日前から前

日まで受付します。

▼問い合わせ 北海道運輸局室蘭陸運支局登録課または整備課 (☎ 4026)

#### 市民のみなさんの

#### 意見や要望をお寄せください

市は、市民のみなさんの意見や要望を市政に反映させるため、まちづくりに関することなど、さまざまな意見や要望をいただいています。

電話や手紙のほか、ファクスでも受け付けていますのでご利用ください。

#### ▼登別市のファクス番号

FAX ☎ 1108

▼問い合わせ 総務課(〒059中央町6丁目11 ☎ 1130 FAX ☎ 1108)

#### お子さんに暴力団の手が

#### 伸びていませんか

3月は、少年非行・家出防止と少年を暴力団から守る活動強化月間です。

春休みは、開放的な気分になり、飲酒や喫煙のほか、深夜外出が増えたり家出をする少年がいます。

暴力団は、家出した少年の心のスキに付け込み、甘い言葉で巧みに近づいてきます。

家出は一步間違えれば、暴力団絡みの犯罪に巻き込まれたり、ときには犯罪者になってしまうこと

があります。

非行防止には、家族とのコミュニケーションが大切です。

▼問い合わせ・相談 室蘭警察署生活安全課 (☎ 20110)

#### NTTからのお知らせ

電話移動の申し込みが、ファクスで簡単にできます。

▼ファクス専用番号(24時間受付) はやめに

0120-8882116

※従来どおり「116番」や窓口でも申し込みできます。

▼問い合わせ NTT室蘭支店サービス企画担当 (☎ 8985)

#### 登別山岳会会員募集

登別山岳会は、一緒に山へ登る仲間を募集します。

▼対象 市内に居住する健康な方

▼申し込み・問い合わせ 3月28日(金)までに河村さん (☎ 8924)



#### 道税の納税を

#### お忘れの方はいませんか

道は、3月を道税の納税推進強調月間として、まだ納めていない方の納税をお願いしています。

#### 訂正とおわび

広報のほりべつ2月1日号14ページ郷土史点描、本分1行目「中村宗次郎」とあるのは「中沢宗次郎」の誤りでした。訂正し、おわびします。

まだ、納めていない方は、早めに納めましょう。

▼問い合わせ 胆振支庁徴収課 (☎ 9131)

#### カンジキをはいて雪の野山に入りませんか?

♪自然愛好グループシキリの会、胆振支庁共催♪

▼月日 3月22日(土)

▼時間 9時10分～12時

▼集合場所 登別小学校駐車場

▼定員 小学生以上の

方40名(子どものみの

参加も受け付けます)

▼内容 動物の足跡捜し、木をテーマにしたネイチャーゲーム

▼参加費 200円(保険料、資料代)

▼申し込み 3月20日(木)までに伴野さん (☎ 7515)



#### 菊花好友会会員募集

場所をとらない小菊の作り方を学んでみませんか。

▼申し込み・問い合わせ 小西さん (☎ 2205)



これなあに？



明治時代のひな人形

これは、明治時代のひな人形。  
 明治・大正・昭和と、母から娘、娘から孫へと受け継がれたものが、郷土資料館に寄贈されて、毎年、桃の節句に合わせて、特別展示されているんだよ。  
 今のひな人形との違いは、顔や手は粘土で作られた焼き物だから、乾燥するとはげってしまうので、保存が大変だったんだって。  
 持ち物では、おひな様のかんむりにきれいな石が埋め込まれているんだよ。  
 きつと大切にされて、時代の流れを見続けてきたんだらうね。  
 (登別市郷土資料館所蔵品)

人のうごき	
●人口	57,132(-61)
●世帯	22,821(-40)
	( )は前月比
平成9年1月末日現在	

となりまち  
 ホットライン

室蘭市

八丁平にマイホームを建てませんか

現在、室蘭市では、八丁平地区の宅地を分譲しています。地区内にはスーパー、コンビニエンスストア、歯科医院などがあり、生活利便施設が整備されています。また4月には、待望の幼稚園や小学校が開園、開校し、いよいよ活気づいてきます。

将来、八丁平地区に住宅の新築を予定されている人は、ぜひご連絡ください。

▼分譲区画 9区画

▼申込方法 随時。現地を確認し、都市整備課に申し込みください。

▼申し込み 詳細 都市整備課 (☎2613)

伊達市

第10回春の合宿村まつり  
 春一番伊達ハーフマラソン大会

▼日時 4月13日(日) 受付は9時30分から。マラソンスタートは午前11時から。

▼場所 だて歴史の杜駐車場発着

▼種目 3km(小・中学生のみ)、5km、10km(車いす有り)、ハーフ(2時間30分以内で走れるかた)の4コース

▼参加料 小・中・高校生は1千円、一般・車いすは2千円、ハーフは3千円

▼申込方法 3月20日(木)までに参加料を郵便振替で振り込んでください。振り込みを持って参加申し込みとします。

▼振込先 ●口座番号 0257500003733336

●加入者名: 春の合宿まつり実行委員会事務局

●通信欄 記入事項: 氏名、住所、性別、年齢、種目、Tシャツのサイズ

▼詳細 体育振興課体育振興係 (☎014233331)



この広報紙は再生紙を使用しています。